

古典講読入門への招待

一橋大学では、「古典講読入門」という名称の科目群を設置しています。これまでに読み継がれてきた「古典」を手がかりに、今に通じる普遍的な問題を考えてみましょう。2019年度には、以下のような科目が開講されます。それぞれの科目についての詳しい説明は、シラバスで確認してください。なお、この一覧に掲載されていない科目もあります。

(表の見方)

担当教員名	学期	曜日と時限
内容紹介		

哲学・思想

小関 武史	春夏	月 4
モンテーニュ(1533-1592)の『エッセー』を邦訳で読む。古典に触発されて思索を深めたモンテーニュの例にならって、他者の書いた文章を読むことを通じて、自らの考えを磨いて文章化する訓練を積む。		

歴史学

馬場 幸栄	春夏	火 3
中世写本研究の世界的権威クリストファー・ド・ハメルの小品 <i>Scribes and Illuminators</i> (『写字生と彩色職人』) (1992)を英文で精読し、実物にも触れながら、中世ヨーロッパの書物制作文化を学んでゆきます。		

文学

川本 玲子	春夏	火 3
世界の文学史に残る青春小説、J.D. サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』を輪読します(原文・和訳併用)。投げやりで傷つきやすい若者の、「『インチキ』ではない何か」を探す旅につきあってみましょう。		
尾方 一郎	春夏	金 2
20世紀ドイツの代表的作家トーマス・マンの小説『魔の山』(岩波文庫)をとりあげます。グループワークも含めつつテキストを丁寧に読解していきます。		
久保 哲司	秋冬	水 2
怪奇幻想文学の元祖として有名なドイツの作家ホフマンの代表作「砂男」などを邦訳で読み、それらのオペラ化や映画化やバレエ化にも触れる。		
井上 間従文	冬	集中 1
詩人マイケル・オンダーチェの小説『イギリス人の患者』を日本語訳と英訳双方をみながら、時間の許す限り読みます。映画版も参照しながら、小説の政治倫理的意義／芸術的意義の関連などについて考察します。		

人間科学

小岩 信治	秋冬	月 4
フレデリク・ショパン(1810-49)の音楽について書かれた古典的入門書の一つ河上徹太郎『ショパン』(音楽之友社, 1962)を読み、あわせてショパンの作品を聴きます。		

総合

フィリップ・ドウニオ	春夏	火 3
誕生から90年、漫画(bande dessinée)の古典となった「タンタンとミルーの冒険」シリーズ(HERGÉ作)中、『タンタンチベットをゆく』(<i>Tintin au Tibet</i>)を楽しく解説する。仏語学力初級以上が不可欠。		